

猿払村学校教育推進計画体系図

基本理念 「心豊かでステキな人がいる村」 基本目標 「生きる力を身に付け、心身ともに健康で個性豊かな子どもの育成」			
	推進目標	基本方向	観 点
学 校 教 育 推 進 計 画	I 生きる力を支える確かな学力の定着	1 生きる知恵につながる確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育の推進	1 確かな学力の育成をめざす教育の推進
			2 コミュニケーション能力を育む教育の推進
			3 特別支援教育の充実
		2 社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進	4 ふるさと教育の充実
			5 国際理解教育の充実
			6 社会の変化に柔軟に対応する力を育成する教育の推進 (情報教育、環境教育及び産業教育の充実)
			7 キャリア教育の充実
	II 生きる力を支える豊かな心と健やかな体の育成	3 豊かな人間性と感性を育む教育の推進	8 道徳教育の充実
			9 読書活動の推進
			10 体験的な活動の充実
		4 心身の健やかな成長を促す教育の推進	11 生徒指導・教育相談の充実
			12 体力・運動能力の向上
			13 食育の充実
			14 健康教育の充実
	III 期待され、信頼される学校づくりの推進	5 魅力ある学校づくりの推進	15 安全教育の充実
			16 特色ある学校づくりの推進 (開かれた学校づくりの推進、学校の施設・設備の充実を含む)
			17 へき地・複式教育の充実
		6 教職員に対する信頼性の向上	18 学校間の連携・接続の推進
			19 教職員の資質・能力の向上
			20 管理職のリーダーシップによる学校組織の活性化

推進目標Ⅰ 生きる力を支える確かな学力の定着

基本方向1 生きる知恵につながる確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育の推進

基本方向2 社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進

現状と課題

少子高齢化や高度情報化、経済的なグローバル化等の社会情勢の変化の中で、子ども一人ひとりに確かな学力を身に付けさせる「学力向上」が大きな課題となり、「生きる力」の確実な育成が成果目標となり、第2期教育振興基本計画に沿った教育改革が進んでいます。

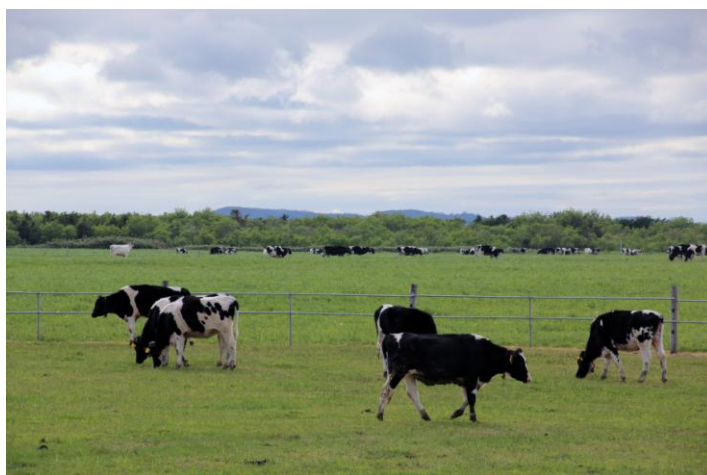
猿払村においては、子どもの状況や課題を保護者と共有した取組みを基盤に、「確かな学力の育成」「学習の習慣化」に取り組んできました。また、特別支援連携協議会を通じて、関係機関や稚内養護学校と連携を深め、個別の情報交換や研修を行っています。さらに、外国語指導助手（ALT）による外国語活動、地域の人材を活用した指導や職場体験など、社会の変化に対応した教育活動が展開されています。

今後は、全国学力・学習状況調査やNRT、Q-Uなどの諸検査の結果を分析し、子ども一人一人の実態や課題を的確に捉え、学習意欲の向上につながる基礎・基本の定着や家庭と連携した主体的な学びの育成と学習習慣形成の取組みが必要です。そして、猿払村教育研究会、猿払村特別支援連携協議会等、教育関係機関との連携、学校・家庭・地域との教育連携と保育所・小学校・中学校の学校間連携を密にし、家庭・地域に信頼される学校づくりを推進することが必要です。

1 生きる知恵につながる確かな学力を育み、自立した生き方を支える教育の推進

観 点	方 策
1 確かな学力の育成をめざす教育の推進	<ul style="list-style-type: none">① 全国学力・学習状況調査やNRTの結果を分析し、各校の課題を学力向上プランに反映させる。② 指導目標や指導内容を明確にし、基礎・基本の確実な定着を図る指導方法の工夫や指導計画の作成に努める。③ 学習意欲を喚起し、少人数学級を活かした個に応じたきめ細やかな学習指導の工夫・改善に努める。④ 体験的学習・問題解決的な学習を積極的に取り入れた指導の工夫に努める。⑤ 地域素材の教材化や人材の活用など地域の特性を活かした指導に努める。⑥ 「統一問題集」と「家庭学習の手引き」による家庭と課題意識を共有した取組みにより、生活習慣・学習習慣の確立をめざす。

<p>2 コミュニケーション能力を育む教育の推進</p>	<p>① 全ての教科において、言語活動の充実をめざし、教育課程の創意工夫と学習指導の工夫・改善を図る。</p> <p>② 互いの考えを適切に表現する取組みや交流を通じて、望ましい人間関係を築くための指導を充実させる。</p> <p>③ 学校全体や保・小・中学校の連携を通じて、異なる年代や他校種と交流する教育活動を工夫するなど、言語活動の充実を図る指導の工夫に努める。</p>
<p>3 特別支援教育の充実</p>	<p>① 子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた個別の指導計画の活用と教育支援計画の作成に努める。</p> <p>② 校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの指名など、校内の支援体制の確立に努める。</p> <p>③ 特別支援学級や通級学級を活用した指導や担当教員との連携による指導方法の工夫に努める。</p> <p>④ 特別支援教育に関わる教育機関とともに、障がいの有無に関係なく、全ての子どもが相互理解を図るために、交流及び共同学習の一層の充実を図る。</p> <p>⑤ 子ども・保護者の意見を十分に受け止め、就学先を検討する「教育支援委員会」の充実に努める。</p> <p>⑥ 猿払村特別支援連携協議会などとの連携を図るとともに、専門家チームや巡回相談員、特別支援学校（パートナーティーチャー制度等）を活用しながら、個に応じた支援方法の助言をいただき、専門性の高い教育の充実を図る。</p> <p>⑦ 障がいのある人々の自立と社会参加や共生社会の実現に向けて、職業教育や進路指導、就労支援の一層の充実に努める。</p> <p>⑧ 子どもの良さや進歩の状況等をとらえ、指導の改善に活かす評価の工夫に努める。</p> <p>⑨ 特別支援教育への理解を深めるため、教職員の研修や保護者の啓発活動を推進する。</p>



2 社会の変化に対応し、新しい時代を切り拓く力を育む教育の推進

観 点	方 策
4 ふるさと教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会教育と連携し、地域行事等の周知と参加促進に向けた取組みを工夫する。 ② 地域の先人について学ぶ機会を設定するなど地域の人材を活用し、ふるさとへの愛着を深める学習を工夫する。 ③ アイヌの人たちの歴史や文化等に関する学習及び北方領土に関する学習において、資料等を活用する調べ学習をとおして、アイヌの人たちや我が国の領土についての正しい理解を促す適切な指導を行う。
5 国際理解教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 外国語（ALTによる指導の充実や効果的な指導方法の工夫・改善を含む）を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、発達段階に応じたコミュニケーション能力の素地を養うための指導や教育課程の改善充実を進める。 ② 小小連携・小中連携の学校間連携を密にして、コミュニケーション能力の基礎を養うよう円滑な取組みの改善充実を進める。 ③ 総合的な学習の時間等をとおして、自国の文化・伝統とともに、諸外国の歴史や文化、伝統について理解を深め、尊重する態度を養う教育活動を工夫する。 ④ 地域の特性に応じて、猿払村国際交流協会と連携して、国際理解教育を充実させる。
6 社会の変化に柔軟に対応する力を育成する教育の推進 （情報教育、環境教育及び産業教育の充実）	<p>（情報活用能力の育成）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 社会の変化に柔軟に対応できるように、コンピュータ等の情報機器を有効活用することをとおして、情報活用能力を育成する。 ② 情報モラルを身に付けさせる指導を充実させるとともに、保護者への啓発活動を行い、ネットトラブルの未然防止を図る。 <p>（環境教育への理解促進）</p> <ul style="list-style-type: none"> ③ 地域資源を活用し、自然の大切さや身近な環境問題に目を向け、地域の豊かな自然を守り育てようとする学習を工夫する。 <p>（産業教育活動の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 地域を支える農林水産業の重要性について理解を深めるとともに、地域の人材によるものづくりや講話などで興味・関心を高め、地域と連携した教育活動を工夫する。
7 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会的・職業的自立の基盤となる発達段階に応じた必要な能力を育成する取組みを位置付けたキャリア教育の全体計画及び年間指導計画を整備する。 ② 社会科見学、職場体験などの体験活動をとおして、社会的・職業的自立の基盤となる能力や態度を育てる指導の改善充実を図る。 ③ 保護者や地域住民、企業等と連携し、職業体験や勤労観の講話などを実施する効果的なキャリア教育を進める。